

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報

2006-5

発行日：平成18年5月10日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

Homepage =www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/

目次

Opinion	1-2
中山間地域における人の送迎と物の配送の一元化	
News Letters	2-7
事業報告・活動報告	
Announcement	7-8
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	8-12
刊行物・文献資料	
Backyard	13
事務局通信	

□ Opinion

中山間地域における 人の送迎と物の配送の一元化

杉恵頼寧

我が国では、既に人口減少化時代に入り、中山間地域の高齢化は急速に進んでいる。特に過疎化が進んだ一部の地域では、コミュニティの維持ができなくなり、地域住民の日常生活が難しくなっている。そのようななか、この過疎化に拍車をかけているのが、需給調整規制の撤廃によるバス路線の廃止である。これによって、車が使えない高齢者等のモビリティ確保が、過疎地を抱える地方公共団体の重大な責務となり、いろいろな対策が講じられるようになってきている。その一つが利用者の需要に合わせて輸送サービスを提供する「デマンドバス」であり、各地元自治体で、その地域に合ったいろいろなシステムが工夫されている。

問題は、このような人々のモビリティ確保だけでなく、日常の生活物資の確保も重大な課題になっている。新聞配達、宅配便等これまで毎日自宅まで配達されていたのが、経費の関係から次第に困難になってきている。このように、人の送迎だけでなく、物の配送がされなくなると、日常生活は極端に不便が強いられる。

この様な宅配物の配送は、ある程度需要があるところでは、共同配送によって、その維

持が可能であるが、需要密度が極端に小さい過疎地ではそれが困難になってきている。新聞や牛乳配達を含めた全ての生活物資を共同配送するのでなければ、配達不能地域はますます拡大する。ところが、物の輸送の中で、郵便物だけが、全国どこへでも安価で配達されることになっており、もし郵便物とその他の生活物資を一緒に配達することができれば、過疎地での日常生活物資の確保はより容易になるものと考えられる。

さらに、人の送迎と物の配送を一緒にできれば、それに越したことはない。すなわち、朝、郵便物とともに注文に応じて生活物資を配達し、その帰りに、高齢者のような交通弱者を病院、ショッピングセンター、銀行、町役場等希望する場所・施設に連れていき、夕方それらの人々を自宅に送り届けるとともに再度宅配物を配達するというような仕組みである。その場合、用事が早く終わった人達は、「バスの駅」のような待合室に集まり、帰りの便まで、みんなで楽しく過せるような施設を整備する必要がある。我々の調査では、このような待合所には、冷暖房、昼の休憩場所、キャッシュコーナー、喫茶、自動販売機、生活物資の販売等の整備が要望されている。こ

の待合所を通じて、広域のバス網につながれば、住民の活動範囲は飛躍的に拡大する。

しかし、郵便集配車が旅客輸送を行うことは、現在我が国では認められていないため、このような新たな仕組みを実現していくことは容易ではない。ところが、バス事業の規制緩和をいち早く成し遂げた英国では、それに伴う新たな課題に対する対応策を直ちに示している。すなわち、事業の採算が取れず、民間バス事業者が撤退した過疎地のバスサービスを維持するために、新しい制度を導入した。これは、日本の郵政公社に相当する「ロイヤルメール」が各地で運行している郵便集配車を人の送迎に活用できるシステムで、他の事業者よりも安いコストで、輸送サービスを提供できることを可能にした。この郵便集配車は、「ポストバス」と呼ばれ、郵便集配と住民輸送という二つの異なったサービスを一台のバスで一度に行うもので、我が国でも新たな地域交通の担い手として十分参考になるものである。

過疎化が進んでいる中山間地域の交通問題を解決するには、省庁別の従来の法体系や制度では、十分対応できないことは明らかであ

る。これからの少子高齢化社会を乗り切っていくためには、根本的な方向転換が必要である。人が居住する中山間地域は、我が国の農業や山林の保全にとってどうしても必要なものである。それが、まさに崩壊ようとしており、一度地域が失われれば、その再生はほとんど不可能である。そのための時間はあまり残されていない。

そこで、まず現在各地で進められている規制緩和の特例措置適用地域（構造改革特区）の制度を活用し、中山間過疎地における「人の送迎と物の配送の一元化」の社会実験を行ってみることが望まれる。さらに、個々の自治体が提供している「福祉バス」、「通院バス」、「スクールバス」等との一元化も検討していく価値は十分あるものと考えられる。その運営は、経営的に成り立ち、民間企業も参入できるものでなければならない。その他の事業を組み込んだシステムも可能であり、いろいろ工夫する事によってその実現性を探る事が必要である。

(計画・交通研究会正会員/

広島大学大学院教授)

□ News Letters

事業報告・活動報告 □

■2006年4月理事会・総会・懇親会

【理事会】

●日時：平成18年4月25日 16：30～

●場所：プラザエフ 8F パンジー

●出席数：18名、委任状10通 計28（理事総数31）にて成立

●第1回理事会

○議事

(1) 第28回通常総会付議事項の審議

☆詳細は同封の第28回総会資料参照

・平成17年度 事業報告および収支決算について

・平成18年度 事業計画案および収支予算案について

・任期満了に伴う役員の変更

(2) 会員移動の承認

以上原案通り可決



▲懇親会冒頭に挨拶される黒川会長

○第2回理事会

・会長1名、副会長2名、事務局長1名の互選
大成建設(株)専務 増田光男氏から、前期に引き続き、会長：黒川 洸、副会長：森地茂氏、同副会長：石田 東生氏、事務局長：清水英範氏の再任の提案があり承認された。
☆詳細は同封の役員名簿参照

【総会】

- 日時：平成18年4月25日 18：00～19：00
- 場所：プラザエフ(主婦会館)8F スイセン
- 出席数：41名、委任状56通 計97(正会員総数111)にて成立
- 議事 ☆詳細は同封の第28回総会資料参照
 - (1) 平成17年度 事業報告および収支決算について
 - (2) 平成18年度 事業計画案および収支予算案について
 - (3) 任期満了に伴う役員の改選以上いずれも原案通り可決。

【懇親パーティー】

- 日時：平成18年4月25日 19：00～20：30
- 場所：プラザエフ7F カトレア
黒川会長挨拶の後、会員相互の交流・親睦がはかられた。また懇親会の途中、若い幹事団の自己紹介と担当事業の説明・抱負等が語られた。森地副会長の中締め後流れ解散。

■2006年3月日本橋エリア見学会

- 日時：平成18年3月31日(金)
見学会13：30～17：00
懇親会17：00～19：00
- 司会・進行：三井不動産 開発企画部開発企画グループ総括 向山成生氏、芝浦工業大学 教授 岩倉成志、筑波大学 助教授 岡本直久
- 挨拶：三井不動産 代表取締役副社長 林洋太郎氏、計画・交通研究会会長・計量計画研究所 理事長 黒川 洸
- 参加人数：60名
- 見学等の内容：

○開発内容説明-1

室町地区開発：三井不動産 日本橋街づくり推進部事業グループ統括 甲斐竜弘氏
日本橋一丁目ビルディング・コレド日本橋：三井不動産 中央オフィス日本橋事務所長 秋元 敦氏

日本橋学生工房のプレゼンテーション

日本大学大学院生 石坂 哲宏 他7名

○見学：コレド・日本橋室町地区・越後屋ステーション、三井タワー、三井記念美術館等

○開発内容説明-2

ジオラマルームの説明

三井不動産 上席主幹 山柘勝彌氏、開発企画部開発企画グループ統括 篠生政士氏

○懇親会：レストラン東洋

以下に見学会参加者の感想文を掲載。

【大成建設(株)土木営業本部 小熊雅弘】

日本橋に賑わいが戻ってきている。視察しての実感である。数年前、まさに日本橋東急百貨店が撤退し、三越などのデパートが不況に喘いでいるころの印象とは一変している。当時の中央通りは地味なオフィスワーカーが歩くどこか暗い雰囲気を通りであったが、今はショッピングバックを抱えた女性や老舗を巡る観光客が行き交う軽やかな通りへと変貌しつつある。そんな印象をまず感じた。



▲開発内容を熱心に聞く参加者

1. 講演

○室町地区開発、コレド日本橋の説明

日本橋地区に高島屋、三越、コレドに加えて、新たに三井タワーという核が生まれた。これらを連携し回遊性を高めるため、地域活動と連携した街づくりを実践しているという三井不動産の姿勢が、とにかくデベロッパー主導となりがちな街づくりとは一線を画していると感じた。

○日本橋学生工房のプレゼンテーション

日本橋学生工房は、東京の学生のコラボレーションによる街づくり活動で既に4年間の活動実績を有しているそうだ。今までの地道な活動が実を結び、室町の歩道デザインを中央区と連携して検討しているとのこと、今後の展開を期待させるものであった。

2. 視察

○コレド日本橋・三井越後屋ステーションに関して

コレド日本橋は高島屋と三越という日本橋の二大商業施設の中間に位置し、両者を繋ぐ役割を担う複合用途ビルである。商業テナントについては二大商業施設と競合しない業態を選定しているようで、戦略性の高さを感じた。また早稲田大学の大学院を誘致したことで、年寄りの多い印象のある日本橋の若返りができたのではないだろうか。

三井越後屋ステーションは期間限定の地域物産のアンテナショップであったが、日本橋の新たな観光スポットとして予想以上の来場者を集めたということである。都市内の「道の駅」ともいべきこの施設は、都市再生の手法の一つとしての可能性を感じさせるものであった。

○日本橋三井タワー、ジオラマについて

ジオラマの説明にさきがけて、三井不動産山榎氏により日本橋繁盛絵巻、熙代勝覧(きだいしょうらん)の紹介をいただいた。絵巻に活写された江戸の庶民の表情豊かな様は、かつて世界一の大都市の繁栄の姿そのものであった。遠く絵巻を眺めると、東京の都市の原型は江戸時代に築かれたことがわかり、今の日本橋

の所々に江戸の息遣いが残っていることが不思議であり、何となく誇らしくも感じた。

3. 最後に

「お江戸日本橋七つ立ち」という道中歌は、「日本橋」を木戸が開く七つ(朝4時)に出発する意だそうだ。まさに五街道の起点に相応しい謡歌である。日本橋の再生は今まさに七つ時、夜明け前の印象、薄光が闇空を薄紅に染めている頃合だ。

【(社)日本プロジェクト産業協議会 業務部研究員 澤井 賢】

各地域で再開発が進んでいる東京。ところが日本橋地域の価値は他の地域とは正反対の方向にあった。

(1) 日本橋一丁目ビル(コレド日本橋)

特例容積率を用いて建設された巨大なビルは、建物の斬新なデザインと大きな吹き抜けのある内部構造であり、建築物としては極めて美しい。しかし、高島屋、三越、三井本館など荘厳な建築物が並ぶ中央通りに、キラキラと輝く巨大なガラスの塔がそびえ立っていることに違和感を覚えたのは私だけではあるまい。

(2) 三井タワー、三井本館

195mの超高層三井タワーも三井本館保存を条件にした特例容積率を用いたものである。周囲のビルとの景観的調和を重視し、下層を重厚な趣とし高さも周囲と統一したデザインは、背後の近代的超高層タワーの威圧感を大きく緩和しており中央通りの明治大正期の雰囲気を生かしている。

ジオラマによる説明では日本橋地域の将来像がCGによって描かれていた。江戸の町並みの再現は地域の歴史を生かした取組みで面白い。しかし、日本橋そのものは明治大正期の雰囲気を持つ橋であり、中央通り沿いと江戸の再現ゾーンとの区分はしっかり行なうことが重要だと思う。ひとつ通りを抜けると明治から江戸へタイムスリップするような街ができるのは楽しみである。しかし近代的街並みを日本橋地域に作る必要はあるのだろうか。

結局50年もすれば時代遅れとなり再び「再開発」ということになる。このようなことは歴史も伝統もない地域で行なえばよい。

(3) 日本橋400年の潜在力

日本を覆う高速道路を撤去さえすればこの地域が復活するわけではない。撤去後に現れるのは橋に染み込んだ400年間の人々の営みなのだ。未来に目を向けたまちづくりが高い価値を生み出してきた東京の中で、日本橋地域のみが過去という方向性から価値を生み出す潜在力を持っている。

■2006年3月 定例研究会

- 日時：平成18年3月22日(水)17:30~19:30
- 場所：計画・交通研究会 会議室
- 演題：「過疎地域のバス交通計画の再考
— 何に着目した計画が必要か?」
- 報告者：鳥取大学工学部助教授 谷本圭志
- 司会：東京大学教授 上田孝行

【報告概要】

本報告では、地方部・過疎地域におけるバス交通計画がどのような情報に基づいて策定されるべきかについて検討する。地方部や過疎地域におけるバス交通の計画主体は地方自治体であり、逼迫した財政事情のもとでのバスサービスの維持が課題となっている。現在、「住民のニーズにあったバスサービス」という標語が全国各地で叫ばれており、様々な取り組みが実施されている。住民の活動ニーズに着目し、その充足度（満足度）を高めるようサービスを計画するのは、帰結主義と効用主義によって特徴づけられる厚生主義に立脚することである。しかし、地方部・過疎地域におけるバスサービスの計画において厚生主義に立脚することは妥当なのであろうか。この点が本報告の問題意識である。

バス交通サービスが低い水準の地域では、バスサービスによって与えられる日常生活の活動の機会が貧困である。すなわち、どこに行くことができるかや何時に外出できるかが制限される。活動の機会がある程度貧困な地

域であっても、そこに居住している人々はその生活に適応することができる。しかし、現状に適応するという事は、現在の活動の機会とその領域の周辺に限定して活動ニーズを無意識的に形成しうる可能性を伴う。つまり、公共交通サービスによって提供されている活動の機会が貧困であれば、活動ニーズもそれに応じて適応的に形成されうる。そうすることで、実行不可能な活動を虚しく切望することなく、現実とニーズの乖離に起因するストレスに煩わされることなく、安静に生活を営むことができる。このことは、バス交通の文脈ならずとも、古くより、社会学、倫理学、心理学などで指摘されている。すると、帰結主義は、個々人によるバスサービスの最終的な評価がよくても、それは活動ニーズを控えめに形成しているためであるという点を見逃す。また、効用主義は、活動ニーズの充足度（満足度）が高いという個々人の主観的な評価について、それが現状に適応することなく活動ニーズを形成してそれを十分に満たしているからなのか、現状に適用した結果、控えめな活動ニーズが満たされたからなのかを区別することができない。このことから、地方部・過疎地域におけるバスサービスの計画は、活動ニーズに先立って、活動の機会に着目すべきと考えられる。

活動の機会の定式化については、古くから時間地理学を中心に、アクセシビリティの研究として知見が蓄積されてきた。そこでは、幾種類かの概念が提唱されている。しかし、



▲谷本圭志助教授

これらすべてがバスサービス計画の文脈に適したものではない。そこで、既往のレビュー論文に基づいてアクセシビリティ概念を分類し、それらのうち、バスサービス計画に適したものを評価・選択する。その結果、時空間プリズムに基づく概念が最も有用であることが示された。しかし、時空間プリズムは、バスサービスが人々の活動パターンを時空間で制約する点、すなわち、バスダイヤによって外出時間が固定されること、目的地が限定されることが適切に表現できない。このため、それらの制約を明示的に考慮しうるアクセシビリティ指標を開発する。

次いで、そのアクセシビリティ指標を用いて、バスサービスを計画する方法論について検討する。現在の地方部・過疎地域におけるバスサービスは、買い物や通院などといった基礎的な活動を支える手段であり、その意味ではそれらの活動の機会を均等化する計画が妥当ではないかと考えられる。しかしながら、どの地区も一律に均等にすべきかについては議論の余地がある。例えば、中心市街地から遠方に居住している人はその人の責任においてその場所を選択していると考えれば、活動の機会は中心市街地からの距離に応じた機会を均等化すべきではないかと考えられる。この種の議論は、これまでに十分に整理されていない。本報告では、ある考え方に基づいた場合に、どの地区にどれだけのサービスを提供するかについて数値例を示し、今後議論すべき課題について触れる。

■2006年4月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅵ講・第1回)

●日時：平成18年4月19日(水)17:00~19:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

「当て塾」塾長 鈴木 忠義

観光学入門の内容を深める：第4章

●参加者：16名（うち計交研関係5名）

〔講義概要〕

2002年6月19日に第1回を開催した本共催

セミナーは、熱心な参加者に支えられて、4年間滞りなく継続でき、開催回数は56回を数える（視察を除く）。本年度の第Ⅵ講では、「観光学入門」の検討を継続するとともに、他のテーマも交えて進めていく予定である。

◆観光学入門◆（鈴木忠義）

「観光学入門」の目次の概要が整ったことから、今年度は、各章・節の内容を深めることとする。（目次案については、第Ⅴ講・第15回（2006.1.18）で提示）

また、「第3章 汎観光とは」までについては再考を重ねてきたことから、第4章以降を主に検討していく。

第4章 汎観光の意義と役割

4.1 汎観光における三つの主体

汎観光には、下記の三つの主体が関わっている。近江商人の活動の理念を表す代表的な言葉である「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の精神が重要である。

第一主体：観光者

第二主体：地域（受け地／住民、行政等）

第三主体：事業者、広域行政、専門家等

4.2 各主体の目的と意義

汎観光における各主体の目的・意義において、最も大切で基本的な問題は、第一主体の満足である。この満足について、人間の基本から考えることが重要である。

(1) 旅行への興味・魅力・楽しみは三段階

人々の旅行には、計画（あこがれ）－実施（体験）－思い出（記憶）の三段階がある。

思い出に残る観光地となることで、多くのリピーターが期待できる。

(2) 記憶の持続

旅行の記憶は、持続して思い出となる。思い出となった記憶は、「エピソード記憶」（特定の場所や時間などの文脈情報に関連づけられた記憶／個人の経験的記憶）と呼ばれる。

(3) 旅行でどのようなエピソードをつくるか

第一主体が旅行に満足すると、その内容は

楽しいエピソードとして記憶される。言い換えれば、第一主体が満足するために、旅行でどのようなエピソードをつくるかが重要なのである。その観点として、人間の好奇心・リズム・ドラマが大切である。

旅行者個人は、それぞれの個性に基づいて旅行を楽しみ経験が蓄積される。このとき、旅行者は、「もの・ひと・しくみ・ところ」によって他者からの支援を受ける。この旅行者と他者との関係の中でエピソードが生まれる。この観点から、ガイドの重要性が示される。

〔参考文献〕 文献ページ30～35参照

◆研究メモ◆（鈴木忠義）

○科学から実学・応用まで（P.S.）

実学である観光学においては、自然、人間、

社会についての純粋科学の成果を、どのような形で応用するかが重要である。

（例）地球物理－地震学－地震工学－岩盤力学・地盤工学－耐震工学－耐震設計－施工－維持

〔人間の記憶システム〕

長く記憶に残る「長期記憶」のうち個人の経験的記憶は「エピソード記憶」と呼ばれる。

匠英一著：「意識のしくみを科学する」

PHP文庫、241PP.、2003.3.17

（参考文献－20-5）

* 今回のセミナーは、このような研究メモの発表・協議を交えていく予定であり、参加者からの多くの寄稿が期待される。

（文責：「当て塾」事務局 野倉 淳）

□ Announcement

研究会・催事の御案内 □

■2006年7月見学会

●日程：平成18年7月3日（月）～4日（火）

●場所：青森市および周辺

○見どころ：新幹線延伸事業見学、青森市内市街地活性化事業など

●協力：青森市、鉄道・運輸機構

●参加予定者：黒川会長、森地副会長、石田副会長、清水事務局長ほか

* 詳細は追ってご案内します。

■2006年5月定例研究会

（土木学会CPDプログラム認定）

●日時：平成18年5月31日（水）16：00～18：00

●場所：計画・交通研究会 会議室

●講師：東京大学大学院 助教授 加藤浩徳

○講師略歴

1993年3月 東京大学工学部土木工学科卒業

1993年4月～1995年3月

東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程（1994年7月～1994年9月 Rijksinstituut voor Integraal Zoetwaterbeheer en Afvalwater-

behandeling（オランダ・ドルドレヒト）にて企業研修）

1999年1月 博士（工学）東京大学

1995年4月～1998年3月 東京大学大学院工学系研究科 助手

1998年4月～2000年8月（財）運輸政策研究機構調査室 調査役

2000年8月～2004年8月 東京大学大学院工学系研究科 講師

（2001年11月～2002年1月 ダルムシュタット工科大学 客員研究員）

2004年8月～ 東京大学大学院工学系研究科 助教授

（2005年4月～2006年3月 スイス連邦工科大学 客員研究員）

●司会：東京海洋大学 助教授 兵藤 哲朗

●講演テーマ：スイス・チューリッヒの交通政策

○講演概要

スイス・チューリッヒにおける公共交通優先型都市交通政策の概略について報告する。チューリッヒは、公共交通を優先させる交通

政策を1970年代からとり続け、成功した都市として世界的に知られている。ただし、その合意に至るまでに1970年代後半に数度の政策論争と住民投票を経た経緯があった。1990年代以降も、チューリッヒ運輸連合の発足による総合的な交通政策の実施や、都市鉄道シス

テムの導入など、積極的な公共交通支援政策が続けられており、近隣諸国と比較しても高い公共交通利用シェアを誇る。発表では、公共交通優先のための道路インフラ整備、道路交通管理、公共交通運用システム、総合交通システムの実態を紹介する。

□ Publication / Documents

□ 刊行物・文献資料 □

■ 2005（平成17）年度学位取得論文

以下に個人会員が指導教員となった博士論文、修士論文、（卒業論文）を紹介します。ご希望により閲覧・貸出および個別研究会、定例研究会の開催も致します。

●大学・大学院名・学科・専攻名・研究室名（指導教官名） <大学名50音順>

○論文著者名／論文表題／キーワード／学位取得年月日／学位区分／レベル（Ⅰ＝基礎的、Ⅱ＝改良後実務応用可能、Ⅲ＝実務応用可能）／URL

●足利工業大学大学院工学研究科都市環境工学専攻交通計画（為国）研究室

○佐藤恵英／参加型まちづくりの実践アプローチ方法に関する基礎的研究／まちの魅力診断評価モデル、まちづくり支援評価、群馬県のまちづくり／平成18年3月20日／修士／Ⅱ

●宇都宮大学大学院工学研究科情報制御システム科学専攻

○長田哲平／統合型データベースを用いた大規模商業施設の交通影響評価に関する研究／統合型データベース、大店立地法、交通アセスメント／平成18年3月24日／博士／Ⅲ

○清水由司／LRT導入時に伴う交通政策が自動車交通流に与える影響に関する研究／LRT、交通流シミュレーション、自動車交通流／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

○早川大介／公共交通指向型開発を既存都市に導入する場合の一考察／TOD、土地利用、既存都市／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

○藤田朋子／交通環境負荷の低減を目的とした交通・土地利用施策の比較研究／交通環境負荷、交通土地利用、コンパクトシティ／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

○丸山健太／都市交通体系の変化による交通流動予測に関する研究／LRT、交通流シミュレーション／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

○谷田部雅人／居住地から見た高齢者の交通行動に関する研究／高齢者、交通行動、居住地／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

○羅霄／アジア途上国の大都市における都市構造を考慮した交通機関と所得の関連性に関する研究／開発途上国、PTデータ、都市構造、交通機関／平成18年3月24日／学士／Ⅰ

●宇都宮大学大学院工学研究科生産・情報工学専攻

○野村和宏／公共交通の推進に向けた都市形態の比較に関する研究／公共交通、都市形態、バスサービス、LRT／平成18年3月24日／博士／Ⅲ

●宇都宮大学大学院工学研究科建設工学専攻地域計画学研究室

○石森大輔／高齢者世帯の電気消費実態の把握と都市政策に関する研究／高齢者、電力消費量、コンパクトシティ／平成18年3月24日／修士／Ⅰ

○大内田昌史／栃木県における道路行政マネジメントの支援システムの開発／道路行政マネジメント、アウトカム指標、データベース／平成18年3月24日／修士／Ⅱ

○曾根原高志／大規模小売店舗の交通アセスメントにおける栃木県の基準作成に関する研究／大規模小売店舗立地法、交通影響評価／平成18年3月24日／修士／Ⅱ

●宇都宮大学工学部建設学科地域計画学研究室

- 丑越勝也／運転時におけるドライバーの危険意識に関する研究／交通行動、運転意識／平成18年3月24日／学士／I
- 川名伸明／時間変動を考慮した公共交通不便地域に関する研究／交通不便地域、バス交通、サービス水準／平成18年3月24日／学士／II
- 佐藤侑／大規模小売店舗の方面別自動車来台数予測の事後評価／大規模店舗、商圈、自動車来台数／平成18年3月24日／学士／I
- 渋谷誠／物資流動実態に基づく東京都市圏における輸送エネルギーの推計／物流、輸送エネルギー、ゾーン特性／平成18年3月24日／学士／I

●九州大学大学院・工学府・都市環境システム工学専攻・交通システム工学研究室

- 陳瑋／Travel Behavior Analysis and Modeling for Daily Shopping／Travel Behavior, Daily Shopping／平成17年9月／博士／I
- 大庭武蔵／階段を含む公共空間における歩行モデルに関する基礎的研究／階段、歩行／平成18年3月27日／修士／I
- 河瀬庸平／時間制約を考慮した貨物輸送における出発時刻決定モデルに関する研究／貨物輸送、時刻決定モデル／平成18年3月27日／修士／I
- 北崎伸二／道路交通に着目した犯罪機会の抑止に関する研究／犯罪、道路交通／平成18年3月27日／修士／I

●埼玉大学大学院理工学研究科・建設工学専攻・久保田研究室

- 植村敬之／商業・観光業者の受容可能性を考慮したTDMの再構築に関する研究／TDM、おもてなし／平成18年3月23日／修士／II
- 武本東／サインカーブランプの実用化と普及可能性／ランプ、生活道路／平成18年3月24日／修士／III
- 山田敬司／バス運行最適化に向けたバス情報活用に関する研究／バスダイヤIT／平成18年3月24日／修士／I
- 大和谷敦史／住民からの提案を前提とした地区交通計画の合意形成プロセスに関する研究／合意形成、地区交通計画、谷中／平成18年3月24日／修士／II
- Jose Alberto Velez Flores／Analysis of drivers behavior considering compliance with traffic information and provision of feedback／Driver Information Compliance／平成18年3月24日／修士／II
- Zaw Naing Win／Comparative Study On Congestion Pricing Scheme By Traffic Simulation Method／Road Pricing Traffic simulation／平成18年3月26日／修士／II

●筑波大学大学院・システム情報工学研究科・社会システム工学専攻・都市交通研究室

- 宮崎文生／つくば市および周辺地域における交通行動実態とT X開業後の交通行動変化の可能性について／モビリティマネジメント、TFP、つくばエクスプレス、交通行動／平成18年3月24日／修士／II

●筑波大学・社会工学類・都市交通研究室

- 瀬谷創／時空間計量経済モデルを援用したKrigingによるデータの内挿／時空間計量経済モデルKrigingデータの内挿／平成18年3月24日／学士／I
- 栗原剛／旅行発生量と訪問地割合に着目したアジア諸国の国際旅行に関する考察／国際観光、需要予測、発生量モデル、目的地選択モデル／平成18年3月24日／学士／I
- 宮原大樹／北部九州圏の空港の連携政策に関する研究／北部九州圏、空港、LCC／平成18年3月24日／学士／I
- 市橋堯行／シーニックバイウェイ北海道活動が関係者間の協働と意識に与えた影響／シーニックバイウェイ、意識調査分析、協働／平成18年3月24日／学士／I
- 関根喜雄／世帯保有自動車の長期間移動再現シミュレータの開発／代替燃料車・燃料スタンド・自動車移動・シミュレーション／平成18年3月24日／学士／I

●東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻

- 飯岡幸大／共同配送における中継地の位置の違いを考慮した走行距離と走行台キロの変化に関する研究／物流、ロジスティクス、共同配送、走行台キロ、／平成18年3月／修士／I

- 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻藤井研究室
- 染谷祐輔／モビリティ・マネジメントにおける基礎技術に関する研究／MM、TDM／平成18年3月26日／修士／Ⅲ
- 東京工業大学工学部土木工学科屋井研究室
- 坂井孝典／住民による道路計画プロセスの事後評価について／道路計画プロセス、PI、評価／平成18年3月／学士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻藤井研究室
- 宮川愛由／公共事業における国民の行政に対する信頼に関する研究／信頼、公共受容／平成18年3月26日／修士／I
- 島田絹子／モビリティ・マネジメントによるバスサービス改善と利用促進プログラムの有効性に関する研究／モビリティマネジメント (mobility management: MM)、TFP (Travel Feedback Program) ／平成18年3月27日／学士／II
- 香川太郎／商店街自動車抑制施策についての合意形成を意図とした商店主と歩行者の意識分析／歩行者天国／平成18年3月27日／学士／Ⅲ
- 東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻屋井・福田研究室
- 松村隆／所得・時間制約下での世帯内活動時間配分モデルに関する研究／活動時間配分、所得・時間制約、時間価値、アクティブシニア／平成18年3月／修士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻屋井研究室
- 鈴木美緒／鉄道駅周辺道路における自転車走行空間の安全性に関する基礎的研究／自転車、車道、安全性／平成18年3月／修士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 鳥居広顕／マイクロシミュレーションを活用した震災後道路ネットワークの容量分析／震災、道路ネットワーク、マイクロシミュレーション、物資輸送／平成18年3月／修士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 山口晋弘／都市内地下道路における多重衝突事故の発生メカニズムに関する研究／地下道路、多重衝突事故、ドライビングシミュレータ／平成18年3月／修士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 東京工業大学大学院理工学研究科国際開発工学専攻屋井研究室
- 山田直樹／空港管制とエアラインの行動からみた空港容量拡大に関する研究／空港容量、航空管制、機材／平成18年3月／修士／I／<http://www.enveng.titech.ac.jp/yai/>
- 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻桑原研究室
- 西内裕晶／Traffic Analysis on the Metropolitan Expressway using ETC Data／ETC data、旅行時間、OD交通量、料金施策評価／平成18年3月23日／修士／I／<http://www.transport.iis.u-tokyo.ac.jp>
- 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市交通研究室
- 中村敦／小学生の自転車交通安全教育における手法の違いによる効果に関する研究／自転車、交通安全教育／平成18年3月23日／修士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- Gunthawong Gessarín／Evaluating Public Preference on Alternative Public Transportation in Chiang Mai, Thailand／public preference, public transportation, Chiang Mai／平成17年9月／修士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻原田研究室
- 古賀崇史／地方部における自律的な生活交通確保に関する研究／地方都市、生活交通／平成18年3月23日／修士／I／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 泉山浩志／生活スケジュールからみた高齢者に係る社会的排除—秋田市をケーススタディとして／生活スケジュール、高齢者、社会的排除／平成18年3月23日／修士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 高橋花／地方圏の持続可能な観光まちづくりに貢献する市民活動の展開に関する研究—えひめ町並博2004を事例として／観光まちづくり、市民活動、えひめ町並博／平成18年3月23日／修士／I／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 中里盛道／交通行動自己診断システムの開発と適用—トラベル・フィードバック・プログラムへの応用とその効果／交通行動自己診断システム、トラベル・フィードバック・プログラム、モビリティ・マネジメント／平成18年3月23日／修士／Ⅲ／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>

- 古川雄一／分布貨物量データを用いた都市内貨物車交通量推計モデルの構築—物流施策評価への利用／分布貨物量、貨物車交通量推計モデル／平成18年3月23日／修士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 東京大学工学部都市工学科都市交通研究室
- 西川悟史／マルチエージェントモデルによる障害物を考慮した自転車歩行者道の評価／マルチエージェントモデル、自転車歩行者道／平成18年3月24日／学士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 東京大学工学系研究科社会基盤学専攻地域/情報研究室
- 長谷川 専／時間管理概念の観点から見た社会資本整備の実施マネジメントに関する研究／時間管理概念、社会資本整備マネジメント／平成18年9月30日／博士／II
- CHON, Jaechoon (全在春) /Three-Dimensional Image Mosaicking Using Multiple Projection Planes (複数投影面を利用した3次元画像モザイク) /画像モザイク、都市モデリング、バーチャルリアリティ／平成18年9月30日／博士／II
- 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻桑原研究室
- 村田啓介／歩行者信号表示方式の変更に伴う横断歩道分析／歩行者、横断、安全、残り時間表示／平成18年3月24日／修士／III／<http://www.transport.iis.u-tokyo.ac.jp>
- 東京大学工学系研究科社会基盤学専攻地域/情報研究室
- 赤澤林太郎／江戸期日本橋界隈の景観再現～富士山・筑波山の眺望の検討を中心として～／景観再現、江戸、富士山、GIS／平成18年3月31日／修士／II
- 遠藤修平／プローブカー情報を用いた道路交通サービス水準の視覚化～到達時間コンターマップを例として～／プローブカー、交通サービス水準、視覚化／平成18年3月31日／学士／II
- 内田弦／都市史研究への火災保険特殊地図の応用可能性～戦前・戦後の東京の街並み調査に向けて～／火災保険特殊地図、都市史、GIS／平成18年3月31日／学士／II
- 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻地域資源計画学研究室
- 河合菜穂子／尾道市傾斜地区の都市景観の特徴とその空間構造／景観、都市、街路／平成18年3月23日／修士／I
- 高橋真大／フランス、サンテミリオンにおける主要建築物の見え方とその特徴／重要建築物、街路、可視範囲／平成18年3月23日／修士／I
- 田代展子／山形県銀山温泉の街並の特徴とその変遷／温泉地、街並景観、変遷／平成18年3月23日／修士／I
- 田村圭／山代・粟津・芦原温泉における沿道の構成／温泉地、接道部、空間の構成／平成18年3月23日／修士／I
- 福山佐恵子／羽黒山の内部空間の特徴と印象に関する研究／羽黒山、空間構成、登山体験／平成18年3月23日／修士／I
- パキティボン・マナッパン／タイ中部の水上市場の空間構成とその特徴／水上市場、空間構成、景観／平成18年3月23日／修士／I
- 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市交通研究室
- Khan Rubayet Rahaman／Design and Safety of Pedestrian Facilities in Dhaka City, Bangladesh／design, safety, pedestrian facilities, Dhaka／平成18年3月23日／博士／II／<http://ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻人間社会計画学講座空間計画科学分野
- 青木健一／婉曲的記号に着目した街路面の「しつらえ」と街並みのイメージ／Euphemistic Sign, Arrangement of Shop's Facade, Street-scape／平成18年3月24日／修士／II
- 市橋慧／法枠の景観評価／Visual Quality, Grating Crib Woks, Slopes, Slope Protection Works／平成18年3月24日／修士／II
- 大道潤／日本経済を対象とした為替変化の輸出価格転嫁率の分析／export price, pass-through rate／平成18年3月24日／修士／I
- 鎌田亮／記憶のされ方から見たチェーン店と個別店舗の差異／Memory, Store, Partial Photo, Repeated Experience, Encoding／平成18年3月24日／修士／I

- 日高良文／和風店舗のイメージ形成における統辞論的コードの役割／Japanese style shops, semiotics, code, syntactics-code, semantics-code／平成18年3月24日／修士／II
- 大窪和明／廃棄物市場における均衡価格分析／price equilibrium, waste recycling market, inventory control, scrap paper／平成18年3月24日／修士／II
- 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻岸井研究室
- 大木清隆／市街地再開発事業における民間活力導入に関する研究／市街地再開発事業、資金計画、民間事業者／平成18年3月／修士／I
- 北郷卓也／博覧会における交通手段別入場者数変動に関する研究／交通行動、団体バス、施設計画／平成18年3月／修士／I
- 古賀裕之／鉄道駅におけるバリアフリー施設利用実態に関する研究／交通行動、移動制約者、エレベーター／平成18年3月／修士／I
- 三上佑輔／業務核都市における駐車場整備に関する研究／駐車場整備実態、駐車需要、駐車場配置、シミュレーション／平成18年3月／修士／I
- 日本大大学院理工学研究科社会交通工学専攻・交通システム研究室
- 伊東英幸／道路整備事業への代償ミチゲーション制度の導入の可能性／代償ミチゲーション、ミチゲーションバンク、HEP／平成18年3月25日／博士／II
- 岡部博志／路面の点検方法としてのプローブカーの活用可能性に関する実証的研究－開発途上国への導入を目指して－／プローブカー、路面、アセット・マネジメント／平成18年3月25日／修士／II
- 藤原真也／複数種のSIモデルを用いた新たな環境評価手法に関する提案／HEP、SIモデル、生物多様性／平成18年3月25日／修士／II
- 室蘭工業大学・プロジェクト評価研究室
- 井田直人／地域航空システム導入の評価方法に関する研究／地域航空、財務分析／平成18年3月23日／博士／II

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター (APTi) が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン (IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員(地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール(推奨。本文挿入または添付ファイル)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さい。よろしくお願いいたします。
- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍(上限4単位=1ページ分:表題・図表を含む)になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日(必着)です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

新アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

■銀行名の変更連絡

当会の取引銀行である東京三菱銀行がUFJ銀行との合併に伴い2006.1.1から下記のように変更されました。会費等のお振込の際はご留意をお願い致します。なお、口座番号・口座名義等は変更ありません。

【変更後】三菱東京UFJ銀行 麹町中央支店

【変更前】東京三菱銀行 麹町支店

計画・交通研究会

会長 黒川 洸
副会長 森地 茂
副会長 石田 東生
事務局長 清水 英範
会報編集委員長 藤井 聡
会報編集責任者 橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

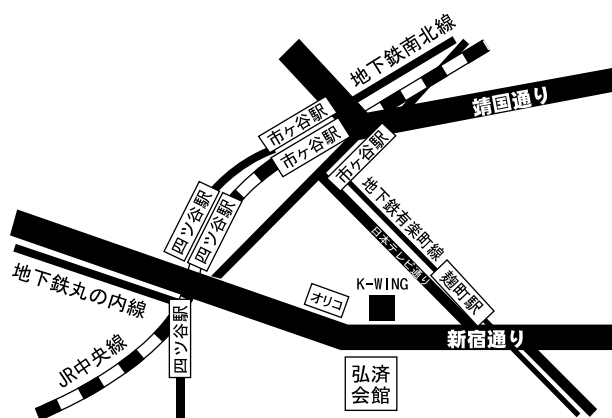
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。